

令和2年度 学校関係者評価書(川南町立東小学校)

4段階評定(4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する)

項目	評価指標及び具体的目標	方策・手立て	自己評価		運営委員評価		結果の考察・分析及び改善策等
			項目	総合	項目	総合	
I 町民総ぐるみによる教育の推進	<p>学校や家庭、地域が一体となり取り組む教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化や学校及び家庭の教育力向上につながるコミュニティ・スクールの推進 ・保護者や地域と連携したあいさつ運動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会委員や学校職員、PTA役員との十分な協議を生かしたコミュニティ・スクールを推進する。 ・コミュニティ・スクールの活用をしながらPTAや交通指導員等と学校の取組を連携させ、具体的なあいさつ運動を行う。 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生や運営委員会による「あいさつ運動」「あいさつがんばりカード」の取組により、挨拶ができるようになった児童が増えた。 ● 「進んであいさつをする」という観点では定着がもう始まっていた。 ● コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の制度について約1割の家庭には十分理解されておらず、積極的に学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の取組等について、保護者や地域に学校の課題を共有する活動を進めていく必要がある。 ○ 見守り隊の規約の作成、組織編成を明確にし取り組み始めた。毎月第1火曜日の情報交換会も計画し、課題点についても確認できるようにした。 	
	<p>家庭や地域の教育力の向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級懇談会への出席率各学級80%以上と内容の充実 ・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級役員との相談を生かして、学級懇談会の内容を工夫する。 ・早寝・早起き・朝ごはんの実践推進のために、日常での指導や啓発とともに学校保健委員会の取組を工夫したり学級役員の働きを生かしたりする。 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ どの学年・クラスも平均94%の保護者の出席率であった。保護者は、学校教育に関心が高く、協力的である。今後も懇談内容を保護者に意義あるものが提供できるように工夫していく。 ○ 7月の保健目標で「規則正しい生活をしよう」「早寝・早起き・朝ごはん」のチェックを行った。また、コロナウイルス感染防止対策も含めた「健康カード」を毎日提出させ、児童の健康状態の把握を行った。学校保健委員会「早寝・早起き・朝ごはん・メディア」について、学級の児童の状況を共有し、各学級で目標を設定した。実際の実践週間等では「早起きはできた」という家庭が多かった。 ● しかし、なかにはメディア使用が多く、早寝ができない家庭もあった。 ○ 学校からの啓発で、「早寝・早起き・朝ごはん・メディア」に関して意識する家庭が増えたのは良かった。 ○ 家庭教育学級は、他校より実施回数も多く、家庭教育学級委員のニーズに応じた教室を開催した。特に、11月はコロナウイルス感染防止対策をしっかりと行い、視察研修も実施した。本年度は、制限のある中、計画した活動が実施できたのはよかった。 ● 1月の「親子英会話教室」は、県の非常事態宣言を受けて中止した。 	
	<p>開かれた学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間7回の参観日の実施、充実 ・11月のオープンスクールの実施、積極的公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・各参観日においては、わらいや年間の見直しをもつことにより、教科や内容のバランスの取れたものとする。 ・オープンスクールを地域や保護者に早めに周知することにより、広く公開する。 	3	3.3	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ● 本年度は、コロナウイルス感染症予防のため、計画通りの参観日が実施できなかった。4月に実施できなかったため、コロナウイルス対策を行い7月に第1回の参観日を行った。 ○ 9月は、計画通りに実施できた。運動会は、午前中の開催となったが保護者の協力で計画した内容は実施できた。 ● 1月の参観日も県の非常事態宣言を受けて、中止にした。 ○ 計画通りに、コロナウイルス感染防止対策を行い、オープンスクールを実施した。地域学校協働活動推進員の黒木義憲さんの協力を得ながら地域人材を活用した授業を各学年実施できた。また、PTAバザーもコロナウイルス感染防止対策を行い、規模縮小ではあったが実施することができた。 ○ 学校だよりを毎月1回発行し、保護者や地域に配付した。また、ホームページの更新をほぼ毎日行い、1日平均約160人程度の方が本校のホームページを見ており(1月8日時点で213,165)、本校の教育活動を広く保護者や地域の方々に公開できていると考える。 	
II 生きる基礎を育む教育の推進	<p>確かな学力を育む教育を推進する。</p> <p>A 学ぶ意欲の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて、「学校で一生懸命勉強している」と答える児童の割合95%以上の維持 ・授業中手遊びがなく、学習活動に熱心に取り組む児童の姿90%の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解と共通実践により、児童や保護者との信頼関係を生かした授業の実践をする。 ・「東っ子スタンダード」を日々活用し、統一した指導を徹底することにより学習に臨む態度を養う。 	2	2.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学校で一生懸命勉強している」と答えた児童は、約72%であった。目標の95%達成はできなかった。児童の中には、自己肯定感が低く、自分がんばれないと感じている児童が多いことが原因と考えられる。そのような児童に対しては、個別指導で児童一人一人に応じた対応を可能な限り行った。また、家庭学習については、宿題等の課題を工夫したり保護者との連携を密にしたりすることで学力向上や提出率のアップにつなげた。今後は、生徒指導の三機能を取り入れた授業改善で自己指導能力の育成と自己肯定感を高める授業改善の研修を行ってきたい。 ○ 4月に「東っ子スタンダード」の共通理解を教職員で行い、児童に継続して実践させた。当初に比べ、学習規律や授業態度は改善している。今後も継続的に指導していきたい。 ● また、学習指導に対する教師への厳しい意見も保護者から受けているので、教職員間で研修を行い、児童への指導の仕方をも工夫していきたい。 ○ 主題研究を中心に、メンター機能を生かした相互授業研究や初期研修の模擬授業等を活用した研究授業事前研究や事後研究を行い、教師の授業力向上を図った。また、児童のリーディングスキルの向上を図る学習指導法を全職員で共有し、普段の授業で実践しながら授業力向上を目指している。 	
	<p>I 基礎的学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要教科の単元テスト平均85%の得点率 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」に沿った家庭学習の在り方を保護者に働きかけることにより学習内容の定着を図る。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月当初に「家庭学習の手引き」を保護者に配付し、各学年における家庭での勉強時間、課題量、読み音の意義等について確認を図った。 ● 保護者アンケートでは、家庭学習の定着が図れていないと回答した家庭が多かった。学年差もあるが、学校による啓発だけではなかなか家庭学習の定着が図れない状況である。保護者による毎日の課題の見取りなどの協力が今後必要である。参観日の懇談会や学級通信、学校通信等で今後も啓発等を行ってきたい。 ● 主要教科単元テスト1学期学校平均は、国語(84.8)、社会(83.9)、算数(81.6)、理科(85.3)であった。得点率85%以上の教科は理科だけであった。学年の差はあるものの算数が全校的に苦手な傾向にある。2年生においては、定期的に算数授業の支援を学校運営協議会委員(島岡さん)にいただいている。他学年においても、TTによる授業や外部による支援等をいただながら、学力向上を目指していきたい。 ※ 委員さんからは、デジタル教科書等のICT機器活用が十分でないとの、もっとICT機器の活用研修を進めて児童の学力向上を図っていただきたいというご意見をいただいた。 	
	<p>ウ 読書の習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間貸出冊数13,000冊以上とし読書内容の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・町立図書館職員等との連携を図るとともに町図書事務職員による図書館運営の活性化を図る。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 1月13日(水)、14日(木)の2かに分けて国語と算数を実施した。検査実施後、結果の考察を行い、本校児童の学習課題を明確にした上で、次年度までに課題となることを重点的に学習指導を行った。 ○ 読書に興味をもたない児童も多かったが、担任が図書室利用を積極的に促したり図書事務の先生を活用したり、町図書館の本を活用したりして様々な本を読む機会を設けた。また、図書事務の先生や担任以外の専科の先生、読み聞かせボランティアの方々等いろいろな方に読み聞かせをしていただく機会を設定することで本に触れる機会をたくさん設けた。読書に興味をもたせている。さらに、図書主任の指導のもと、図書委員会による「読書まつり」を開催し、委員会の児童が読み聞かせをしたり図書クイズをしたりして、図書室を積極的に活用した。1月現在貸出数が10,122冊である。目標100冊で、全校目標の13000冊まであと2,878冊にせまってきたので、今後も読書に興味をもつ本を読めるよう継続して上記のような取り組みを行ってきたい。 ※ 東公民館でも町図書館の貸し出しが定期的できるようになる予定なので、活用してほしいというご意見もいただいた。 ○ ファミリー読書では、親子での読書を推進し、家庭でも本を読む機会を設けた。実施後の感想を児童に書かせることで、どのような本を読んだか振り返らせた。また、振り返りカードを教室等に掲示することで他の児童がどのような本を読んだかを知り、友達が見た本を読んでみたいという興味ももたせた。 	
<p>愛かかな心を育む教育を推進する。</p> <p>A 思いやりのある児童の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「友だちに優しくしている」と答える児童の割合95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の教科道徳の時間における話し合いを通して愛かかな心の育成を推進する。 ・特別の教科道徳の指導力向上を目指して研修を充実させる。 ・生徒指導の三機能や特別支援教育の理念を理解した指導・支援により、児童の現在および将来の自己実現を図るため自己肯定感を高めるから自己指導能力の育成を行う。 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「友達に優しくしている」と回答した児童のうち、71%は「よくしている」と回答した。「まあよくしている」も含めると95%の児童が「優しくしている」と回答し、目標達成できている。育りの会等の日常指導で友達の良い所を見つけて互いに賞賛し合う活動をどの学級もしている。また、学級活動や道徳教育を中心に自己肯定感を高める授業を行い、思いやりの心を育てる指導を行っている。さらに、人権教育も年間計画に沿って1月に各学年で授業を行った。このような取組を行い、少しずつではあるが思いやりの心が育てられている。 ● 学校行事と道徳教育の関連を図るため、年間指導計画の見直しを実践を通しながら進めている。道徳の授業研修については、1・2学期は実践できていないので、今後、3学期に研究授業等を行って、指導力向上につなげたい。 ○ 月1回のいじめ・不登校対策委員会や特別支援教育委員会を行い、一人一人の児童に寄り添った対応策について全職員で検討し、共通理解のもと全職員で指導に当たっている。また、外部関係機関と協力をした支援を行うための構造的に専門機関と連携し、一人一人の児童への対応もしている。II-1「確かな学力を育む教育の推進」の「学ぶ意欲の向上」と関連するが、生徒指導の三機能を生かした授業改善研修も行ってきたい。 		
<p>I あいさつ活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「元気なあいさつを込めている」と答える児童の割合95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルトレーニングを生かし、具体的なあいさつ指導を随時行う。 				<ul style="list-style-type: none"> ● 「元気なあいさつを込めている」とは、「よくしている」と回答した児童は約56%。「まあよくしている」と回答した児童を含めると約86%であった。保護者の意識は、「よくしている」と回答したのは約14%。「まあよくしている」も含めると約63%であった。児童と保護者の意識の差があることから、本校の課題であるあいさつは少しずつ改善されてきているものの、また保護者や地域から見ると十分とは言えない。今後もあいさつ運動の推進とともに、あいさつ運動を継続して行なうことで、進んであいさつする児童を育てていきたい。 ※ 委員さんからは、4月当初は挨拶をしても通じてくれる児童は少なかったが、最近では児童の方からあいさつをしてくれるようになったというご意見をいただいた。 		
<p>ウ 楽しい学校生活の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「学校が楽しい」と答える児童の割合95%以上 ・いじめゼロの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートと教育相談を有効に活用、運動させることで、嫌なことが困ったことを早めに相談、解決することができるシステムを活性化させる。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校がとても楽しい」と回答した児童は、約70%。「少し楽しい」も含めると約94%の児童が「楽しい」と回答したので、ほぼ目標達成はできた。 ● 約6%の児童が「楽しくない」と回答していることから、「楽しくない」と回答した児童については、毎月行っている教育相談等を活用して個別に支援を行い、楽しい学校生活が送れるよう支援していきたい。 ● 本年度は、いじめ認知件数は累計8件。そのうち解決済みは6件。経過観察中が2件である。どれも重大事態となるいじめではなかったが、1件1件担任が丁寧に対応しているため、早期解決されている。今後も児童の小さな変化を見逃さず、いじめの解消に向けて取り組んでいきたい。 		
III 自立した社会を育む教育の推進	<p>確かな学力を育む教育を推進する。</p> <p>A 基礎体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストにおける本校の課題である柔軟性のスコアが90以上と学年が3/6 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の時間や昼休み時間等の運動量を十分確保する。 ・体育科学習カードや体力アップカレンダーを活用することによって、主体的な体力向上の取り組みを促す。 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ● 本年度は、コロナウイルス感染防止対策のため、体力テストの実施ができなかった。 ○ 11月に長座体前屈、ソフトボール投げ、握力、シャトルランの4種目を実施した。本年度はTスコアで示すことができないため、昨年度の県平均と比較し、上回っている学年をみると、握力は(男子2/6、女子3/6)、20mシャトルラン(男子6/6、女子5/6)、ソフトボール投げ(男子6/6、女子5/6)、長座体前屈(男子2/6、女子4/6)であった。 ● 握力と長座体前屈においては、県平均を上回る学年が少なく、今後体育の時間や日常の学校生活において強化していく必要がある。 ○ 20mシャトルランとソフトボール投げについては、県平均をほとんどの学年が上回ることであった。保健委員会が企画、実施した昼休みの練習や体力アップカレンダーでの取組が効果を上げたと考えられる。 ● 具体的な取組の例として、朝の会に「体力アップ」の時間を設け、体力アップを目指して毎日取り組んでいる学級もある。しかし、体力アップカレンダーを基にした指導を行う時間がなかなか見いだせない学年・学級も多く、活用の方法を再度職員で確認する必要がある。 	
	<p>I よい生活リズムの習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「早寝・早起き・朝ごはん」を実践している割合85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた就寝時刻やメディアとの接し方の基本的ルールを児童と共通理解するとともに保護者への啓発を図る。 ・学校保健委員会の充実及び学級懇談会や各種たよりの活用により家庭との連携を深める。 				<ul style="list-style-type: none"> ● 「早寝・早起き・朝ごはん・メディア」に関して、「毎日できている」と回答した児童は約60%、「だいたいできている」も含めると約89%であった。学校保健委員会でも取組目標を各学年設定して取り組んだが、十分な定着まで至っていない。オンラインゲームやSNS等の使用が増えていることが原因の一つと考えられる。 ○ NNF教育委員会や養護教諭部会から出された「スマートフォンやゲーム機などを使う場合の川南町子3つの約束」の啓発を行ったり、11月のメディアコントロールウィークを行ったことで、児童一人一人が自分でメディアコントロールできるよう取り組んだ。また、東っ子育成協議会では、本校児童のメディア使用の実態について知っていただき、問題点を保護者や地域の方々と共有した。 	
	<p>ウ 健康増進の意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周治療率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周治療が進まない家庭への個別の働きかけをする。 				<ul style="list-style-type: none"> ● 現在むし歯治療率は約54.3%。その中には、昨年度も未受診で本年度も未受診の児童が8名もいる。未受診児童については、11月に養護教諭が個別に指導を行っているが未だに未受診の児童がいる。保護者へも連絡をしているが、なかなか受診をしてもらえない状況である。今後も継続して受診のお願いをしていく。 ○ むし歯予防の観点から、正しい歯磨きの定着を図るために、養護教諭が給食時間各学級に直接出向き、歯ブラシチェックや歯磨き指導を行っている。今後も定期的に指導をしていく予定である。 	
IV 魅力ある教育を支える体制や環境の整備・充実	<p>ふるさと川南に学び、誇りや愛着を育む教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと川南を理解しふるさと川南に誇りをもつ児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を中心として、地域人材を積極的に活用することにより、東小校区の中心産業や保護者・地域の人の願いを把握させる。 ・総合的な学習の時間において、地域の方から指導していただく学習を各学年計画的に実施する。 ・町歌の斉唱(入学式、卒業式、運動会、月の歌) 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田植え・稲刈り(5年)、芋植え・芋掘り(1・2年)、ミン学習(5・6年)、タグラグビー指導(3・4年)、音の遊び(1・2年)、福祉体験(4年)、キャリア教育(3年)、ものづくり体験学習(5・6年)、もちつき体験(5年)など、コロナ禍ではあったが本年度も保護者や地域の方々及び地域企業、町や県の関係機関と連携しながら、可能な限り学校関係者の協力やご指導をいただいた。地域学校協働推進員の黒木義憲さんによる地域人材活用も積極的に行うことができた。 ○ 町歌は、入学式や運動会等の大きな行事で斉唱した。本年度は、コロナウイルス感染防止対策のため、1番のみの斉唱であった。今後も行事等で歌ってきたい。 	
	<p>キャリア教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関する学習活動の積極的実践と学ぶ意義を理解した取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の年間計画の見直しを基に、地域の方から指導していただく学習を各学年計画的に実施し、児童とわかる場を設定していく。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年生の総合的な学習では、本校保護者の農家の方へ訪問し、農家の仕事について学習したり、本日、サン・ジョース工場(ビデオによるお話)や消防団員に来ていただき講話をいただいたりすることで様々な職業について学習した。5・6年生においては、ものづくり体験を通して量や木工の職人さんから直接指導を受けながら作品作りを行い、ものづくりの楽しさを味わうことができた。 ○ 4年生は、保護者の方で畜産業をされている方から、肉跡に関するお話をいただいたが、命の大切さや畜産農家の苦悩について知る機会を設けた。また、障がいのある人本人及びその親をお呼びし、地域で生きる当事者の願いについて考える機会を設けた。3年生は、身近な地域の方や保護者に目を向け地域で活躍できる方を学校にお呼びし、子どもたちにお話をいただいた。身近な地域にも素晴らしい方々がいることを知るよい機会になり、ふるさとを愛する心を持っていくことができた。 	
	<p>学校における安全、安心の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しと研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、避難訓練、安全点検を計画的に実施する。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 県のコンプライアンス重点取組事項の周知と本校の取組事項を設定周知し、日々コンプライアンスの遵守を行っている。7月と11月の服務規律強化月間では、コンプライアンスチェックシートを活用し、振り返りを行った。コンプライアンス推進委員会を定期的に行い、本校の課題について確認したり、職員の気になる言動がないかチェックしたりしている。また、毎週水曜日の職員連絡会においても、コンプライアンスに関する指導を行ってきた。その成果もあり、現在服務規律違反ゼロである。 ○ 主題研究の時間を活用したり、初期研修をメンター制で行ったことで、全職員で授業改善について研修を深めている。本校児童の実態にあった研究主題を設定し、リーディングスキルの向上や特別支援教育を重視したユニバーサルデザインの工夫を中心に授業力向上を目指して取り組んでいる。 ○ 学年ごとに相互授業を行い、研究主題に沿った授業ができていくのが相互にフィードバックを行いながら、授業力向上に努めた。初期研修については、全員で授業事前研究や事後研究会を行い、初期研修の授業を通して授業の工夫改善について協議し、それぞれ授業に生かすようにした。 	
<p>職員員の資質向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務規律違反ゼロ ・校内外の研修の活用と実践 ・メンター機能、OJT機能の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律遵守の意識の高揚のための適時の啓発、コンプライアンス研修会日々のお互いの声かけを行う。 ・メンター機能を生かした初期研修を継続実施し、授業改善に視点を充てた校内研修の充実を図る。 	3	3.0	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県のコンプライアンス重点取組事項の周知と本校の取組事項を設定周知し、日々コンプライアンスの遵守を行っている。7月と11月の服務規律強化月間では、コンプライアンスチェックシートを活用し、振り返りを行った。コンプライアンス推進委員会を定期的に行い、本校の課題について確認したり、職員の気になる言動がないかチェックしたりしている。また、毎週水曜日の職員連絡会においても、コンプライアンスに関する指導を行ってきた。その成果もあり、現在服務規律違反ゼロである。 ○ 主題研究の時間を活用したり、初期研修をメンター制で行ったことで、全職員で授業改善について研修を深めている。本校児童の実態にあった研究主題を設定し、リーディングスキルの向上や特別支援教育を重視したユニバーサルデザインの工夫を中心に授業力向上を目指して取り組んでいる。 ○ 学年ごとに相互授業を行い、研究主題に沿った授業ができていくのが相互にフィードバックを行いながら、授業力向上に努めた。初期研修については、全員で授業事前研究や事後研究会を行い、初期研修の授業を通して授業の工夫改善について協議し、それぞれ授業に生かすようにした。 		
<p>学校における安全、安心の確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの見直しと研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全、避難訓練、安全点検を計画的に実施する。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健体育部を中心に危機管理マニュアルの見直しを行い、全職員に共通理解を図った。1学期に予定していた風水害避難訓練や不審者対策研修は、臨時休校のためできなかった。地震避難訓練については、計画通りに入行した。津波についても指導を行い、津波が発生した時の避難の仕方について確認した。1学期できなかった不審者対策研修を2月に予定している。安全点検は、毎月行い、危険箇所等は改善できた。 ○ 4月当初「よい子のきまり」を保護者へ配付し、自転車の乗り方や登下校の仕方について保護者へ周知を図った。さらに、始業式や終業式等の節目の時や児童の登下校の様子をみ定期的に指導を行った。また、9月には下校中の声かけ事業として不審者情報を保護者からいただき、町教育委員会や高嶺警察へすぐ連絡し、安心メールで見守り活動や登下校の見守りもお願いした。不審者情報をいただいた1週間程度は、見守り隊やPTAの方々にお願いで登下校時間に青バを活用した見守り活動を行っていただいた。警察の方にも下校時刻に巡回パトロールもしていただいた。11月には、地域の方から下校中の交差点での飛び出しが多いと連絡を受け、すぐに、担任から児童へ指導を行っていただいた。登下校中のトラブルも数件あったが、その都度、関係する児童を校長室に呼び、具体的な指導を行い、生徒指導室を中心に全体への指導を行った。その結果、児童の交通事故はゼロであった。 ○ 毎月月初めに、安全点検を行い、すぐに技術員さんに対応していただいている。 ○ 昨年度の危険箇所でも改善できない箇所や保護者に情報をいただいた新たな危険箇所について、夏休期中すべてチェックをした。また、東っ子育成協議会にも通学路危険箇所について情報提供し、見守り活動をお願いした。通学路危険箇所については、町の建設課へ伝え、数か所改善していただいた。今後も、町を通して通学路の危険箇所がなくなるようにお願いしたい。また、子どもも110番についても昨年と同じ39の個人や商店等へお願いし、子どもたちの見守りをお願いした。 ○ アレルギー対応で除去食対象児童は、現在1名。給食主任に除去食がある場合には、担任や管理職にその都度伝え、誤食がないようにしている。 		
<p>アレルギー対応のミスゼロ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員によるアレルギー対応児童の周知と理解 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 県のコンプライアンス重点取組事項の周知と本校の取組事項を設定周知し、日々コンプライアンスの遵守を行っている。7月と11月の服務規律強化月間では、コンプライアンスチェックシートを活用し、振り返りを行った。コンプライアンス推進委員会を定期的に行い、本校の課題について確認したり、職員の気になる言動がないかチェックしたりしている。また、毎週水曜日の職員連絡会においても、コンプライアンスに関する指導を行ってきた。その成果もあり、現在服務規律違反ゼロである。 ○ 主題研究の時間を活用したり、初期研修をメンター制で行ったことで、全職員で授業改善について研修を深めている。本校児童の実態にあった研究主題を設定し、リーディングスキルの向上や特別支援教育を重視したユニバーサルデザインの工夫を中心に授業力向上を目指して取り組んでいる。 ○ 学年ごとに相互授業を行い、研究主題に沿った授業ができていくのが相互にフィードバックを行いながら、授業力向上に努めた。初期研修については、全員で授業事前研究や事後研究会を行い、初期研修の授業を通して授業の工夫改善について協議し、それぞれ授業に生かすようにした。 		